

結城紬産地振興を目的とした周知PR及び魅力向上活動



小山市
栃木県産業労働観光部工業振興課

岩淵和也様 江口和成様

2班 コミュニティデザイン学科
建築都市デザイン学科
社会基盤デザイン学科

猪瀬真由香 塚原歩夢
岩崎直人 築瀬徳花
石田梨華 堤綱斗

背景

結城紬は栃木県や茨城県の鬼怒川流域で作られている絹織物。全ての工程が手作業で行われており、その技術はユネスコ無形文化遺産にも登録されている。結城紬は精緻な亀甲模様や複雑な緋柄で構成された美しい柄や、やわらかく、空気をたくさん含むあたかさが特長である。また、親子三代着られる点から人に愛されてきた。しかし、近年では生活サイクルの変化に伴う着物需要の低下、それに伴う売上低下、結果として商品開発・PRの余裕がなくなってしまう新たな顧客を開拓できないという悪循環が起きている。産業全体が落ち込み、後継者も不足しているため、今後結城紬産業がさらに衰退してしまう恐れがある。

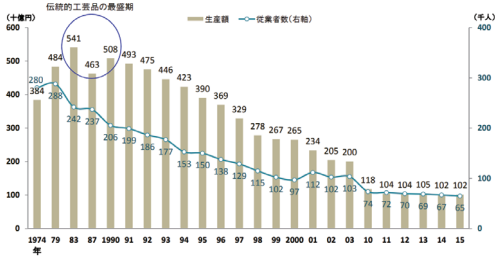


図1 伝統的工芸品の生産額・従業者数の推移 (一般社団法人日本工芸産地協会資料より)

目的

背景を受けて、私たちの班では、認知度や需要などを調査した上で、結城紬の特徴を周知し、魅力を向上させていくことが重要であると考え、認知度の低い層に対して結城紬の認知度を向上させると同時に結城紬に関連した魅力づくりをすることで、紬に対する興味・関心を生み、結城紬を手にする人や産業に関わる人を増やすことを目的とする。

方法

1stサイクルでは、イベントでのヒアリングやアンケートを通して結城紬製品の所持率や認知度を明らかにし、今年度の活動のターゲットを明確にした。

2ndサイクルでは、それらの結果をもとに未就学児や小学校低学年の子どもたちを対象としたワークショップを2回企画し、紬について学ぶ場や紬に触れる場を用意した。また、そこでのアンケートを通してワークショップ内容の改善点や需要のある内容を検討した。

3rdサイクルでは、それらの改善点をもとに次年度の活動への素材づくり及びその提案を行った。

1st サイクル 6月11日県民の日記念イベントでヒアリング調査 → 今年度の活動のターゲットを明確にする

2nd サイクル 2度のワークショップを8月と10月に開催 → 結城紬について学ぶ場や触れる場を企画

3rd サイクル WSを経て来年度の活動へ繋げる素材づくり → 出前授業セットの制作と新しい工作体験の考案

来年度の活動へ...

分析結果

対象者 県民の日記念イベントへの来場者56名 日時 6月11日 方法 ヒアリング
回答人数 56人
回答者属性 男性：26.8% 女性：73.2%
10代：12.5% 20-40代：26.8% 50-60代：21.4% 70代以上：39.3%

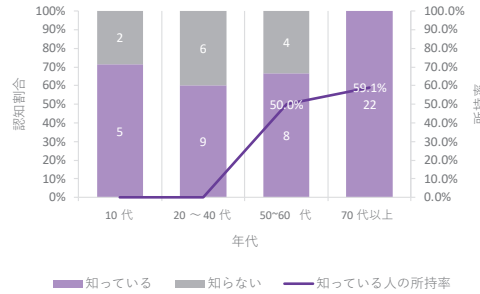


図2 認知割合と所持率

①若い世代で認知度が低い

結城紬を知っていると答えた人の割合は70代以上で100%であったが、その他の年代では60-70%ほどであり、特に10代の子どもたちや20-40代の小さな子どもの親世代など若い世代で認知度が低いことが分かる。

②10~40代の結城紬製品の所持率は0%

結城紬を知っていると答えた人で結城紬製品を持っている人の割合は70代以上で59.1%、50代-60代で50%と高かったが、10代や20代-40代ではともに0%と若い世代で手に取られていないことが分かる。

提案

私たちの班では、小さな子どもたちが結城紬について学び、実際に触れる場としてワークショップ「結城紬ふわふわ大作戦」を企画し、8月11日にミナテラスとちぎで、10月2日に国体会場での2回行った。ワークショップでは、スライドで紬について知ってもらった後で、原料となる真綿や紬の糸、紬の切れ端などを使い工作を行った。

結城紬を学ぶ場

結城紬の歴史や作られ方、それによって得られる特徴などを説明し、結城紬に興味を持ってもらうと同時に、紬産業が抱える問題や紬について学べるサイトなどを紹介することで、一緒に参加する親御さんと子どもが、引き続き紬に関心を持ち、認知度の向上に繋がると考えた。



図3 スライドでの学習

結城紬に触れる場

学習スライドで登場する素材を実際に使って工作をすることで、結城紬の特長でもある触り心地や温かみを感じ、更なる理解につながると考えた。また、工作物がモノとして残ることで、子どもたちが結城紬のことを思い出したり、覚えたりすることに繋がると考えた。



図4 WSでの制作物

次年度への提案

2回のワークショップのアンケートを通して、①結城紬の素材を使った工作体験の満足度が高いこと、②同様のワークショップに対する参加意欲が高いこと、③ワークショップとして素材や紬を使った工作体験の需要が高いこと、が分かった。また、ワークショップでの反省を生かし次年度に向けて、学習用スライドの内容をブラッシュアップし、出前授業などで活用できるようにすること、紬の素材を使った新たな工作体験の内容の考案することの2点を行った。

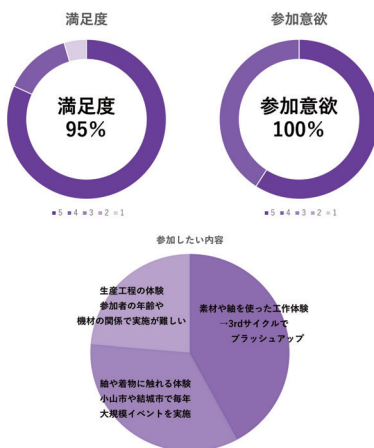


図3 WSでのアンケート結果

アンケートから得られたこと

- ✓ 結城紬の素材を使った工作体験の満足度が高い
- ✓ 結城紬をテーマとしたワークショップに対する参加意欲が高い
- ✓ ワorkshopとして素材や紬を使った工作体験の需要が高い

ワークショップでの反省点

- ✓ 制作で糸や布をあまり使って貰えなかった
- ✓ 展示されていた着物の解説も聞きたい など

出前授業セットの制作
新しい制作体験の考案